

団体名	社会福祉法人 和歌山いのちの電話協会
活動テーマ	自殺予防のための電話相談養成

いのちの電話マーク（心に寄り添う）



養成講座の研修（講師）



第31期養成講座の修了式



いのちの電話の活動セミナー（理事長）



- ①現在、自殺者数は22年ぶりに去年1年間自殺者（警察庁）2万2,000人を下回り（警察庁）40代3,739人、50代3,631人、60代3,626人、19歳以下520人で「健康問題」「経済・生活苦」「家庭問題」が要因です。
- ②和歌山いのちの電話の相談では、総電話件数の中に占める自殺念慮（自殺示唆、自殺危機、自殺実行中）の人たちの割合が年々増加し、そこからは、自殺危険度を持った人からの相談が増えつつある傾向が読み取れます。
- ③電話の内容も以前に比べてかなり変化してきており、不安や心の傷を抱えた方、うつなどの精神疾患の方からの電話が増加しています。本来、この人たちに対しては、社会においては精神科医や臨床心理士等の専門職の方が対応していますが、時間の制約があり、時間をかけて話を聴くということは難しい現状です。
- ④心の傷を負った方々に対しては、アドバイスや助言ではなく時間をかけて話を聴き、気持ちを少しずつ受け止めるという作業を行うことで、ゆっくりとした回復に向かっていきます。いのちの電話では、気持ちに寄り添い話を聴くことで、電話をかけてくる方々が不安や心の傷から、少しでも解放されることを目標としています。
- ⑤電話相談を担う専門的訓練を受けた相談員の安定した確保が必要であり、今年度もこの専門的訓練活動により相談員の育成できたことで、新たに誕生した電話相談員と一緒に、これからも多くの方の気持ちに寄り添って、頑張っていきたいと思えます。